2—屈折検査

❶ 他覚的屈折検査

1．オートレフラクトメーター

1）目的

①他覚的屈折度数の測定

②角膜曲率半径の測定

2）らくらく検査チャート

器械の高さと顎台の高さを調節する

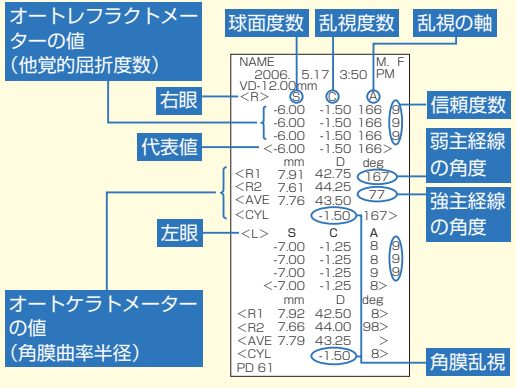
↓

測定中心を瞳孔の中心に操作し，ピントを合わせる

↓

測定する（3回以上測定する）

3）結果のみかた



2．検影法（スキアスコピー／レチノスコピー）

1）目的

日常視に近い両眼開放下での屈折検査．

2）らくらく検査チャート

検査は半暗室で行う．被検者と50cm離れて対座する

↓

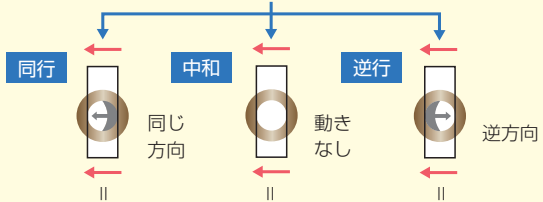
まぶしくなく縮瞳しにくい乳頭面で検査する．
右眼（左眼）測定では検者の右耳（左耳）後方を見てもらう

↓

縦長の開散光にした光を被検者の瞳孔に入れ
水平方向へ移動させる（スキャニング）

↓

検影器を動かしながらのぞき穴から検影器の動きと
反射光の動きとの関係を観察する



屈折度（D）＝ 中和のときの検査レンズ −2

1経線の屈折度測定ができれば

↓